

令和3年度水稲病害虫発生情報 第1号（6月下旬）

令和3年6月29日
青森県病害虫防除所

斑点米カメムシ類が多く見られています。
畦畔や本田の雑草防除を徹底しましょう。

1 斑点米カメムシ類

(1) アカヒゲホソミドリカスミカメ

ア 発生概況

- ① 定点調査ほ場（青森、木造、鶴田、十和田、七戸、八戸）の畦畔に設置した性フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺は、5月下旬の設置直後から認められ、誘殺数は平年並に推移している（図1）。
- ② 県内3か所（青森、木造、八戸）に設置した予察灯では、越冬世代成虫が6月2半旬から誘殺されており、誘殺数及び発生時期はほぼ平年並に推移している（表1）。
- ③ 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されており、第1世代成虫の発生盛期は平年よりやや早まり7月上中旬頃、発生量は平年よりやや多くなると予想される。

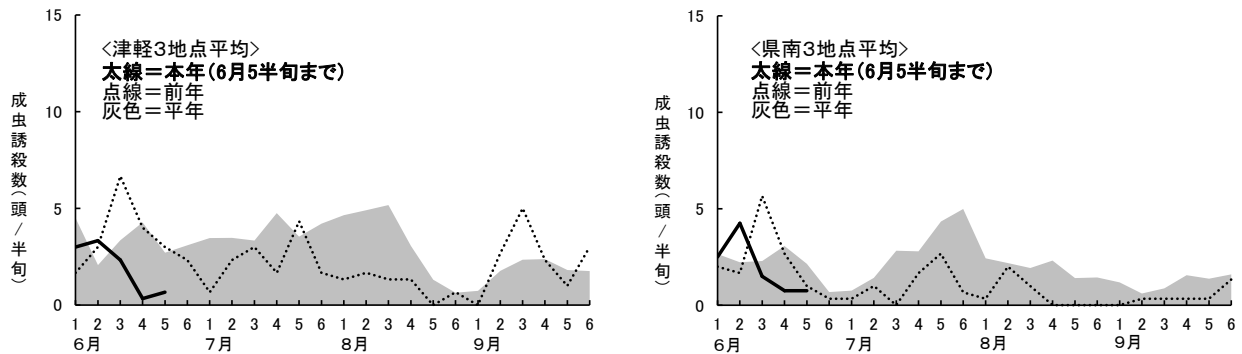


図1 畦畔に設置した性フェロモントラップにおけるアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺状況

注) 津軽地域の平年値は青森(前10か年)、木造(前9か年)、鶴田(前6か年と平成23年)の3か所の平均値。
県南地域の平年値は十和田及び七戸(前10か年)、八戸(前5か年)の3か所の平均値。

表1 予察灯におけるアカヒゲホソミドリカスミカメの半旬別誘殺状況

地区名	月 半旬	6						7						
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
青森	本年	0	2	5	0	1								
	前年	6	1	1	0	0	0	4	5	1	31	28	17	
	平年	0.9	0.5	0.4	0.6	0	4.5	11.7	19.9	33.4	29.0	25.6	23.5	
木造	本年	0	4	6	0	0								
	前年	4	3	7	1	2	11	35	99	2	133	67	26	
	平年	1.5	0.9	4.4	4.0	5.1	4.7	18.4	57.4	130.7	67.4	121.1	81.2	
八戸	本年	0	1	0	0	0								
	前年	3	4	8	0	0	0	0	12	6	23	34	8	
	平年	1.5	0.5	1.6	2.1	2.2	1.0	2.7	10.5	46.1	38.6	48.1	56.9	

(2) アカスジカスミカメ

ア 発生概況

- ① 定点調査ほ場の畦畔に設置した性フェロモントラップでは、越冬世代成虫が津軽地域で6月上旬から、県南地域で6月中旬から誘殺されており、誘殺数は平年より多く推移している。(図2)。
- ② 予察灯では、青森、木造で平年より早く誘殺され、6月の誘殺数としては多く推移している(表2)。八戸は今のところ誘殺されていない。
- ③ 向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されており、第1世代成虫の発生盛期は平年よりやや早まり7月中下旬頃、発生量は平年より多くなると予想される。

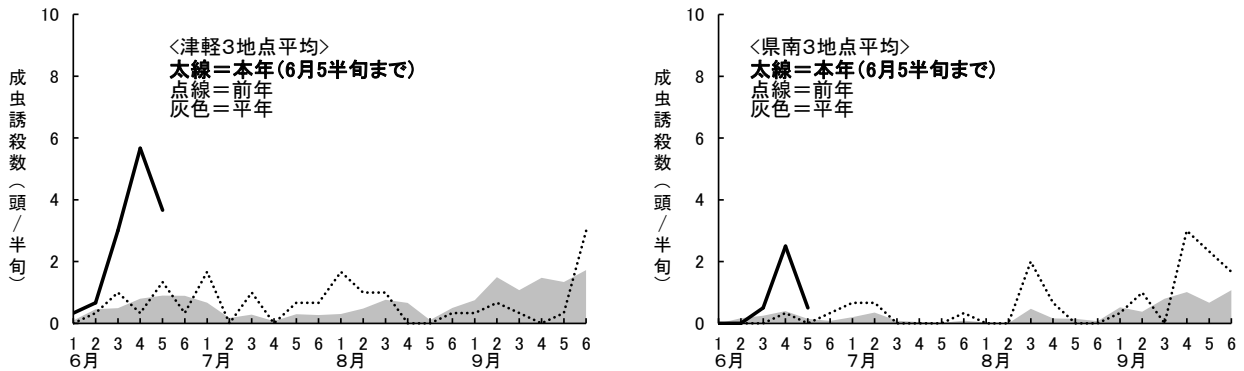


図2 畦畔に設置した性フェロモントラップにおけるアカスジカスミカメの誘殺状況

注) 津軽地域の平年値は青森(前8か年)、木造(前7か年)、鶴田(前6か年)の3か所の平均値。

県南地域の平年値は十和田及び七戸(前8か年)、八戸(前5か年)の3か所の平均値。

表2 予察灯におけるアカスジカスミカメの半月別誘殺状況

地区名	月 半月	6						7						
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
青森	本年	0	1	17	4	2								
	前年	0	2	6	7	1	3	1	5	0	11	9	2	
	平年	0.4	0.8	1.3	1.4	1.7	5.5	6.3	4.1	6.1	6.9	12.4	13.8	
木造	本年	0	0	1	1	0								
	前年	0	1	4	0	0	4	4	10	0	10	4	3	
	平年	0.2	0.1	0.9	0.6	0.4	2.0	3.7	4.7	5.7	4.7	13.0	9.2	
八戸	本年	0	0	0	0	0								
	前年	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	
	平年	0	0	0	0.1	0.3	0.4	1.8	2.2	2.1	0.6	1.8	3.6	

(3) 今後の防除対応

- ① 7月上中旬はカメムシが増加し始める時期であることから、この時期に除草を行う。特に水田周辺の休耕田や畦畔等では、雑草が開花・結実しないように刈取りや耕起を行い、遅くとも水稻の出穂2週間前までに終わるようにする。
- ② ノビエ、ホタルイ、シズイは斑点米カメムシの誘引源であり、これらが多発している水田では斑点米率が高くなることから、除草と防除を徹底する。また、ホタルイ、シズイはアカスジカスミカメの誘引源となり、多発ほ場では斑点米率が高くなるので、同様に除草と防除を徹底する。

2 イネミズゾウムシ

(1) 発生概況

発生地点率は、県全体で平年より高かった。食害度は、津軽地域では平年より高く、県南地域では平年よりやや高かった。特に東青、中南、下北で食害度の高い水田が目立った。

(2) 今後の防除対応

食害が多い水田では、次年度以降育苗箱施用剤による防除を実施する。

表3 巡回調査（6月下旬）におけるイネミズゾウムシ被害（食害度）

地域	年次	調査 地点数	程度別発生地点率(%)				発生地点 率(%)	食害度
			甚(>70)	多(>40)	中(>20)	少(>0)		
津軽	本年	35	0	0	14.3	57.1	71.4	7.8
	前年	35	0	0	14.3	60.0	74.3	8.1
	平年	35	0	0	8.9	54.4	63.3	5.7
県南	本年	28	0	0	14.3	46.4	60.7	7.0
	前年	27	0	0	22.2	37.0	59.3	8.8
	平年	32	0	0.3	14.0	44.1	58.4	6.7
県計	本年	63	0	0	14.3	52.4	66.7	7.5
	前年	62	0	0	17.7	50.0	67.7	8.4
	平年	75	0	0.3	10.6	49.8	60.7	6.2

3 イネドロオイムシ

(1) 発生概況

発生地点率及び食害度は、津軽地域、県南地域ともに平年より高かった。

(2) 今後の防除対応

食害が目立ち、幼虫が見られる水田では速やかに薬剤散布を実施する。

表4 巡回調査（6月下旬）におけるイネドロオイムシ被害（食害度）

地域	年次	調査 地点数	程度別発生地点率(%)				発生地点 率(%)	食害度
			甚(>70)	多(>50)	中(>20)	少(>0)		
津軽	本年	35	0	0	31.4	42.9	74.3	10.9
	前年	35	0	0	8.6	34.3	42.9	3.5
	平年	35	0	0	2.4	23.4	25.8	1.7
県南	本年	28	0	0	3.6	25.0	28.6	2.7
	前年	27	0	0	0	18.5	18.5	0.9
	平年	33	0	0	0	0	0	0
県計	本年	63	0	0	19.0	34.9	54.0	7.3
	前年	62	0	0	4.8	27.4	32.3	2.4
	平年	81	0	0	1.2	22.2	23.5	1.2

4 フタオビコヤガ

(1) 発生概況

発生地点率及び食害度は、津軽地域では平年より高く、県南地域では平年よりやや低かった。

(2) 今後の防除対応

7月上旬に食害が目立つ水田では薬剤散布を実施する。

表5 巡回調査（6月下旬）におけるフタオビコヤガ被害（食害度）

地域	年次	調査地点数	程度別発生地点率(%)				発生地点率(%)	食害度
			甚(>70)	多(>40)	中(>20)	少(>0)		
津軽	本年	35	0	0	0	42.9	42.9	0.9
	前年	35	0	0	0	5.7	5.7	0.1
	平年	35	0	0	0	9.0	9.0	0.3
県南	本年	28	0	0	0	10.7	10.7	0.1
	前年	27	0	0	0	7.4	7.4	0.2
	平年	32	0	0	0.3	14.2	14.5	0.5
県計	本年	63	0	0	0	28.6	28.6	0.6
	前年	62	0	0	0	6.5	6.5	0.1
	平年	75	0	0	0.2	10.5	10.6	0.3

5 イネヒメハモグリバエ、イネハモグリバエ

(1) 発生概況

① イネヒメハモグリバエの発生地点率及び食害度は、県全体で平年より低かった。

② イネハモグリバエの被害は認められなかった。

(2) 今後の防除対応

発生時期が長期にわたる場合は、7～10日ごとに2～3回薬剤散布を実施する。

表6 巡回調査（6月下旬）におけるイネヒメハモグリバエ被害（食害度）

地域	年次	調査地点数	程度別発生地点率(%)				発生地点率(%)	食害度
			甚(>70)	多(>40)	中(>20)	少(>0)		
津軽	本年	35	0	0	0	37.1	37.1	1.0
	前年	35	0	0	0	42.9	42.9	0.7
	平年	35	0	0	2.1	50.0	52.1	2.6
県南	本年	28	0	0	0	25.0	25.0	0.8
	前年	27	0	0	0	22.2	22.2	0.7
	平年	32	0	0	0.3	29.5	29.8	1.2
県計	本年	63	0	0	0	31.7	31.7	0.9
	前年	62	0	0	0	33.9	33.9	0.7
	平年	75	0	0	1.1	39.9	41.0	1.8

6 いもち病（葉いもち初発未確認）

(1) 発生概況

6月29日現在、本田における葉いもちの発生は認められていない。

(2) 今後の防除対応

① 取置苗は葉いもちの発生源となるので、水田内や周辺に放置しない。

② 常発地や葉いもちに罹りやすい品種を作付している水田で、箱施用剤や側条施用剤を使用していない場合は水面施用剤を散布する。

③ 葉いもちの初発生は、例年7月上中旬頃に確認されている。水田をよく見回り、発生を認めたら直ちに茎葉散布を実施する。病気の進展が止まらない場合は、系統の異なる薬剤を散布する。

県民の皆さまへのお願い
新型コロナウイルス感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>

【この情報に関する問合せ先】

〒030-0113 青森市第二問屋町 4-11-6 青森県病害虫防除所
TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900 担当：技師 濱端 駿